



聖路加  
チャペル  
ニュース

2017年6月25日 No.246

〒104-0044  
東京都中央区明石町10-1  
聖路加国際大学礼拝堂

TEL 5550-2416 (日曜)  
TEL 5550-7043 (平日)  
FAX 5550-7070  
E-mail: chapel@luke.ac.jp  
URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



聖ルカ礼拝堂80年記念誌作成チーム

聖書に学ぶ会

- 第1・第2日曜日 午後12時30分 聖書を読む会
  - 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書
  - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書
- 場所…旧館2階 プライベートルーム／ロビー  
日程変更の場合があるため事前にご確認ください。

巻頭メッセージ

聖霊降臨の時を  
生きる教会

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■ 午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■ 午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

■ 午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■ 午前10時 日曜学校礼拝 チャペル

■ 午前10時30分 聖餐式・説教 チャペル

■ 午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

チャプレンメッセージ

# 聖霊降臨の時を生きる教会

司祭 バルナバ 関 正勝

聖ルカ礼拝堂は、一九三六年に創立されて八十周年を祝う記念誌が出版されました。この記念誌の編集には礼拝堂の多くの方々の力が結集されています。東京教区の多くの教会でも長い歴史を歩んで来て、その歩みを記録する記念誌の出版がなされつつあります。それぞれの記念誌が東京教区の各教会の宣教の働きを生き活きと伝えてくれています。聖ルカ礼拝堂の記念誌を一見してその特徴はそれぞれの記録や文章の筆者が無記名なこととす。そのことの意味は何だろうか、と想像してみたのですが、そこには個人の働きよりももっと大きな存在の働きと導きがあることを暗に表現しているのではないか、ということのように思えました。

いずれにせよ、八十年誌を手にしてわたしたちは礼拝堂のことに草創期、戦時下での困難な歩みと、その時代を生きられた先輩の方々のご苦勞を記憶し感謝する、と共にこれからの新しい歩みに思いをいたす、掛け替えのない契機が与えられました。教会の暦は聖霊降臨日をむかえましたが、礼拝堂の歩みは聖霊降臨の時を引き継ぐ歩みであること

を記憶したいものです。使徒パウロは「働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのには神です。一人一人に、霊の働きが現われるのは、全体の益となるためです。」(一コリ十二・六、七)と語ります。礼拝堂の歴史を刻んだ壁や椅子など、あらゆるところにここで祈った人々、そして今も祈る多くの人々の悲しみや痛みそして喜びが刻まれております。パウロは言うのです、人生の日々に経験する悲しみや痛みなど、マイナスと考える事柄でさえも「全体の益」となる、と。

わたしたちは悲しみや痛みなどを抱えて祈ります。祈りの中で、わたしたちは今直面しているそれらの現実がわたしの人生のすべてのすべて、最終回答ではないことを知らされます。そのようにして祈る人は、それらの現実に逆らって、そうです。そのような悲しみや痛みがあるにもかかわらず立ち上がって歩み始めます。その姿こそが今悲しむ人を勇気づけ希望を与えます。そのことが「全体の益」をもたらします。聖霊の時を継ぐ歩みをもたらしています。